

「豊かな心で未来に向かって生きる生徒の育成」

～しなやかな心を育成する道徳教育の充実～

I 研究の内容

1 研究部会

(1) 教科研究部会

- ・道徳教育と各教科の目標，内容及び教材を関連付けた授業研究
- ・学力の向上を目指した家庭学習の充実を図る研究

(2) 道徳教育部会

ア 第1分科会「授業研究」

- ・道徳の時間の授業改善，教材の開発などを研究
- ・年間指導計画の作成

イ 第2分科会「学校生活」

- ・授業以外の学校生活の中での道徳教育について研究
- ・生徒に道徳的価値を意識させる環境づくりの研究
- ・道徳教育と各月の生活目標を関連付けた授業研究

ウ 第3分科会「家庭・地域との連携」

- ・家庭・地域の方の参加による授業研究
- ・学校・家庭・地域が一体となって行う道徳教育の発信方法の研究

2 具体的研究内容

(1) 道徳教育の充実に向けて

ア 道徳授業と道徳教科化についての学習会

- ・講師に義務教育課の田中一弘指導主事を招聘し，公開授業に向けて具体的な指導方法や今後の道徳教育について学んだ。

イ 新道徳性検査 HUMANⅢの結果分析について

- ・学校における道徳教育の充実を図れるよう，学級・学年全体，ならびに生徒一人ひとりの道徳性の実態や傾向を客観的に把握するために実施。

ウ 教科における道徳別葉の見直し

- ・各教科で道徳性を育てる題材に注目し，年間指導計画に位置づけた一覧表の作成の見直しをした。

エ 道徳研究授業

- ・11月16日に道徳推進教師・地域の方々への公開授業を実施。

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 1年4組・1年5組 | 4－(1) 法の遵守・権利義務 |
| 2年2組・2年5組 | 4－(10) 国際理解・人類愛 |
| 3年3組・3年4組 | 3－(3) 弱さの克服     |

## (2) 学力向上の取組

### ア 自学ノート

- ・各学年で統一した考えのもと、方法・スタイルを考えて取り組ませる。

### イ 自学の時間

- ・定期テスト前の月曜日の7校時に設定し、生徒が自主的に学習する。

### ウ 学級力向上

- ・各学年で1年間を通した行事等と合わせ意図的に行う。

## II 成果と課題

### 1 成果

「やまなし」道徳教育推進指定最終年度であった本年度も、学校の教育活動全体を通じて道徳教育の推進に取り組んだ。特に教科研究部会と道徳研究部会の2部会の形を取り、さらに道徳研究部会は全教職員が3分科会に分かれて所属し公開授業に臨んだ。組織の在り方が適切であったので、効率的で個々が責任を持って取り組み、研究がスムーズに進められた。公開授業には地域の方に通知を送り、参観してもらった。授業後の研究会には推進教師を始め、他校の教師や学校関係者も参加し、深まりのある話し合いができた。公開授業に先駆けて行った指導主事の田中一弘先生の講義も、大変具体的な内容であり、道徳教育の方向性を学べるよい機会であった。

学力向上の取組では、手立ての1つとして自学ノートに取り組ませたが、今年度は、学年ごと実態に合わせて統一した方法で取り組ませた。継続した取組により家庭学習の習慣が定着しつつある。また自学の時間の設定では、今年度は定期テスト前に多く設定したので、生徒に少しずつ自主的に学ぼうとする姿勢が身についてきているように思われる。

### 2 課題

道徳公開があったので、道徳中心の研究となり、教科研究においては時間の確保ができず、個人の取組に任されることが多かった。今年度で道徳教育推進指定は終了するが、道徳の教科化に向けて継続して研究するとともに、「確かな学力」の育成のための「授業改善」を図る研究も必要である。教科研究の時間を確保すること、授業を互いに参観し合い指導力を高めることにも取り組むべきである。自学ノートの更なる充実、自学の時間の設定日の課題もまだある。生徒の実態を把握し研究の方向性を決めていくことが大切である。

## III 成果物

道徳指導案(1年・2年・3年)、新道徳性検査

(研究主任 長嶋明美)